

噴火口



コロナと共存する中での子どもの生活情報は、フエイクニュースは少ないようですが、逆に、「子どもは小さいから大変だ！重症化する！」という無知な人達の過剰な心配情報で溢れています。小児科医（筆者）からすると、これらは善良なだけに厄介なものです。これから一〇歳未満の小児の死亡例が必ず出現すると思いますが、メディアに出てまた大騒ぎになるでしょう。ただ、いわゆる季節型の感冒コロナでさえ、今まで調べなかっただけで、五〇万人に一人くらいは死亡

例があるはずで、この事は市井の小児科医なら誰でも知っています。また第五波では子どもの感染者数が多くなりましたが、大人のワクチン接種が進んだので、この増加数は至極当然のことです。私は健康な子どもは大人よりもコロナウイルスについては強い生き物と考えています。そこで以下、一人の小児科医が考えるコロナ禍での子どもの生活をQ&Aで記します。ただこれは、現在行っている感染対策を否定するものではなく、適切な感染対策はいつでも必要です。

コロナ共存時代と子どもの生活

とつては既存の四種の季節型（感冒）コロナも新型コロナも全て一緒であり、つまり何でも初物なので、新型コロナが重症になりやすいという事は今の所ありません。小児では抗体産生能力の低い事が、逆に軽症化に寄与しているのです。小児発達免疫というの

ども、また子どもから親への感染をゼロにする事は不可能です。乳幼児がなぜ引いた時には、祖父母とは接触させず、また親はコロナワクチンをして、家でおとなしくしていきましょう。親御さんにかぜ症状がでたら親御さんが検査してください。子どもの生活

を守るために、これは一人の小児科医の意見ですが、乳幼児はコロナ抗原定性検査だけで十分と思います。

う。クラスターが起こっても学校が萎縮する事のないように、学校や教育委員会を責めないでください。また、子どもはある程度罹患すると認識してください。ただ第五波でこれだけ小児の患者さんがいても重症例はごくわずかです。子どもは軽症なのだか

ら、両親や祖父母が感染しない事の方に力を注ぎましょう。

Q・子どもへのコロナワクチンはしたほうが良いか？

A・新型コロナは子ども自身の健康には大きな影響はないのでワクチンは社会的や家族的な意味合いでの接種となります。ワクチンは有効な事は間違いないですが、長期にわたる安全性は当然ながら確立されていません。迷っている人がいれば「安全性のデータがでるまでちょっと待って」という選択肢も提示してあげてください。これからもコロナは変異するので、現在のワクチンが有効なのはこれから最大でも二年と思います。さて、これから来る第六波もどんだん若い人主体の感染になってきます。適切な感染対策の下（但し子どもに完全な感染ゼロを求めているわけ

Q・子どもの新型コロナは本当に軽症なのか？

はとても興味深いものです。

Q・親から乳幼児（またはその逆も）の感染は防げるか？

Q・保育園、幼稚園、学校での子ども同士のクラスター感染は防げるか？

い、人やお金の負担が限りなく増大します。子どもは罹ってもある程度は当然の存在として、学校生活などは、なるべく早く日常の生活を取り戻しましょう。子どもの周りの関係者が、少しでも伝播を防いで子どもの日常生活を守ることが肝要です。子どものコロナの健康被害は、現在コロナ感染症本体ではなく、それに伴う二次的なものです。この一年半、抑圧を受けている子どもの健康被害（うつ傾向、自殺など）は多大なものですから、また、筆者は行政の立場とは少し違う事を記しているのは承知しております。ご意見ご質問は左記までお寄せください。

Komatsu Shunpei, author, md, jip
理事 駒本 智